

2020年度 環境に関する企業意識調査の結果（概要）

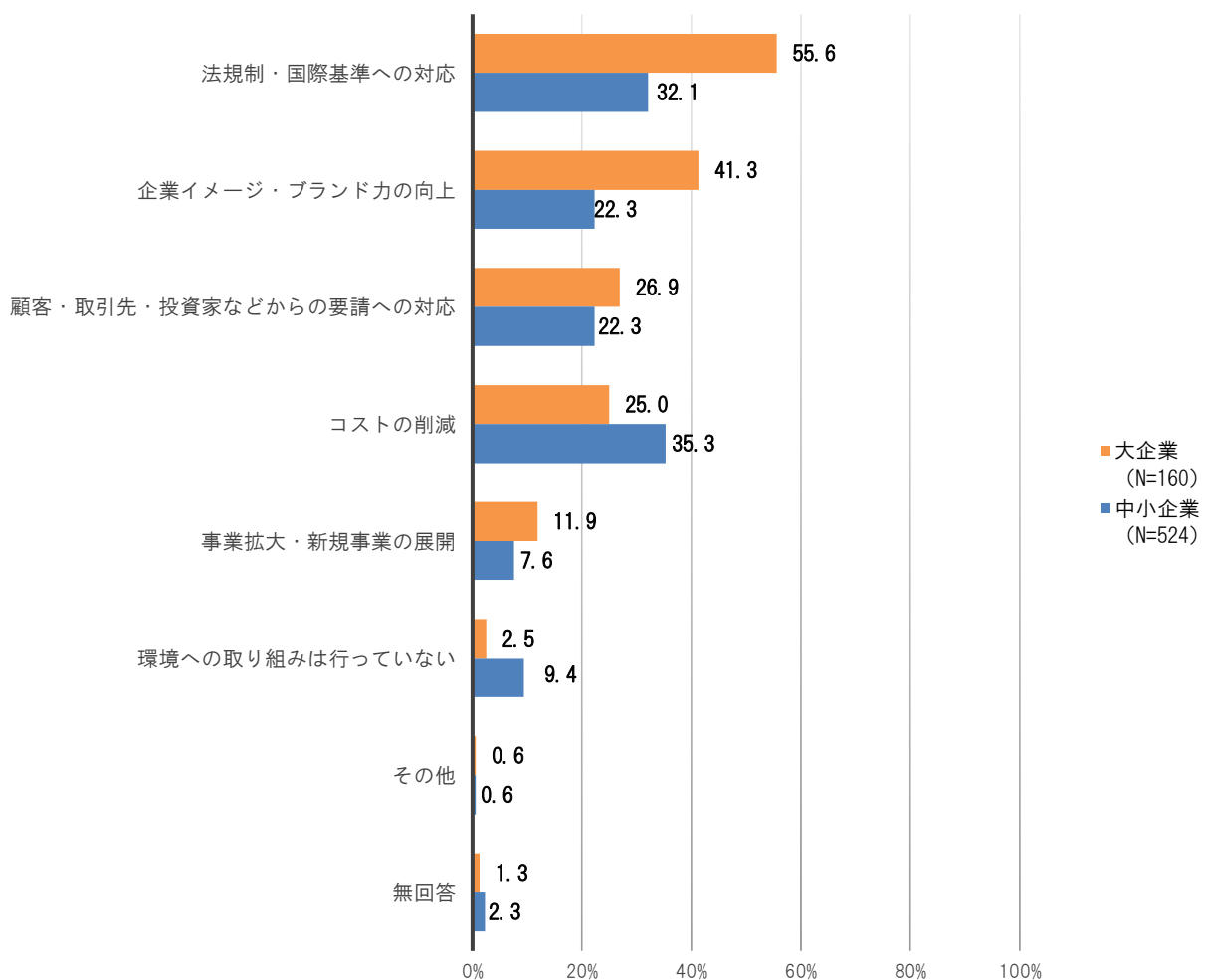
横浜市では2020年9月から10月にかけて、横浜市に本社または事業所を置く企業2,000社を対象に、環境に関する意識調査を実施しました。

◆調査結果

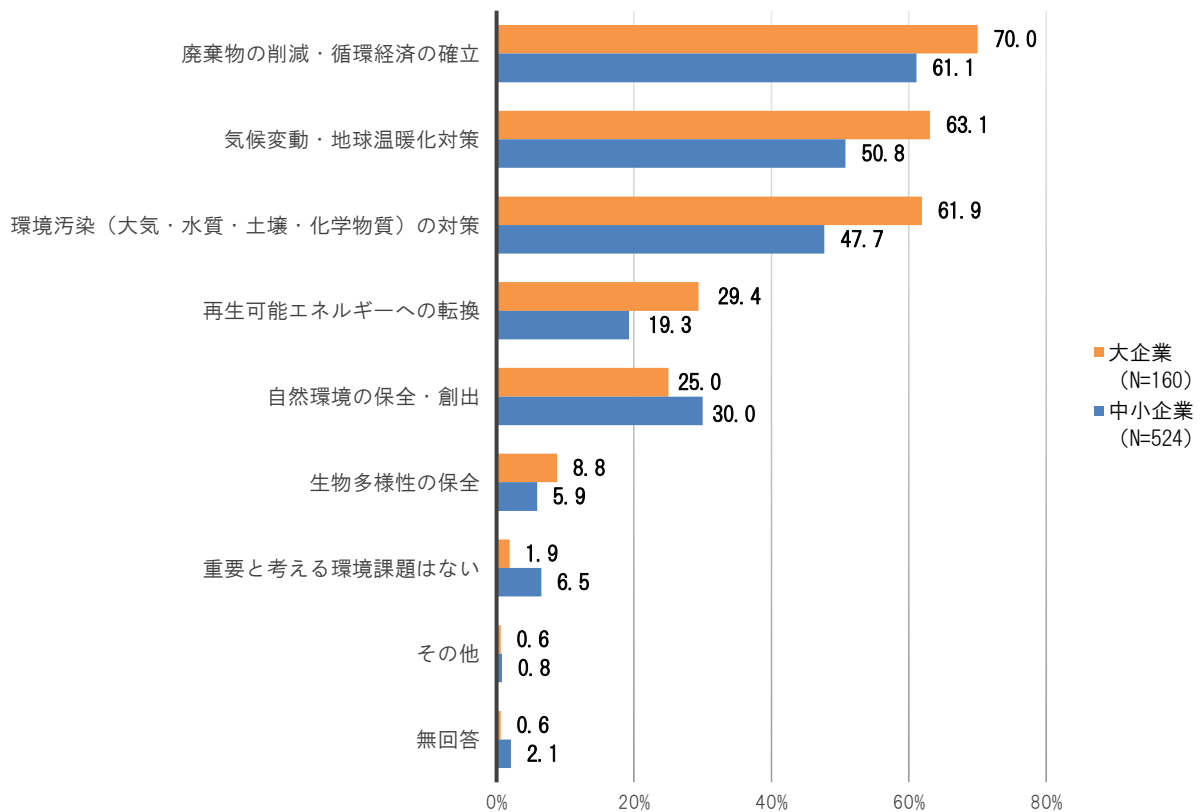
1 環境への取組の考え方について

- ・環境への取組を行う目的は、大企業、中小企業ともに「社会的責任」が最多
- ・重要と考える環境課題は、大企業、中小企業ともに「廃棄物の削減・循環経済の確立」が最多
- ・経営方針・経営戦略などに環境への配慮や取組・目標を盛り込んでいる企業は大企業の75.0%、中小企業の32.8%
- ・SDGsへの貢献の視点を持った経営、事業活動を行っている企業は大企業の50.6%、中小企業の9.2%と大企業が先行して取り組んでいる

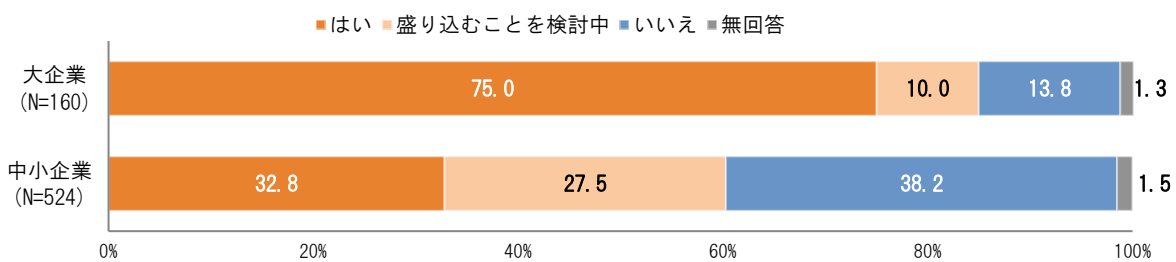
問1 貴社の事業活動において、環境への取組を行う目的は次のうちどれですか。
【重要なものを3つまで選択】



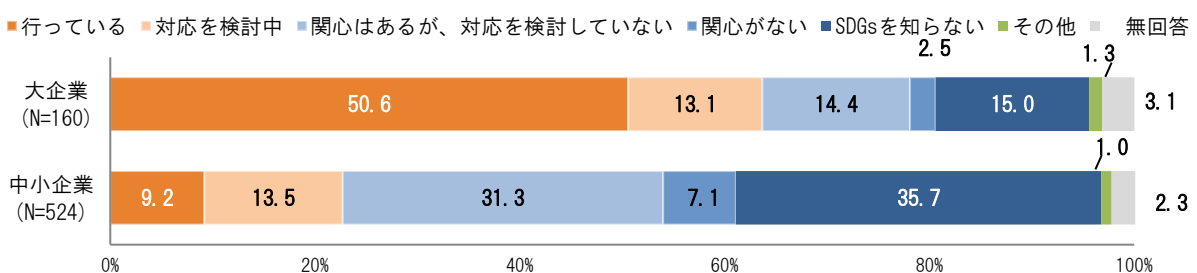
問2 貴社の事業活動を継続する上で、重要と考える環境課題は次のうちどれですか。
【重要なものを3つまで選択】



問3 経営方針・経営戦略などに、環境への配慮や取組、目標を盛り込んでいますか。
【1つ選択】



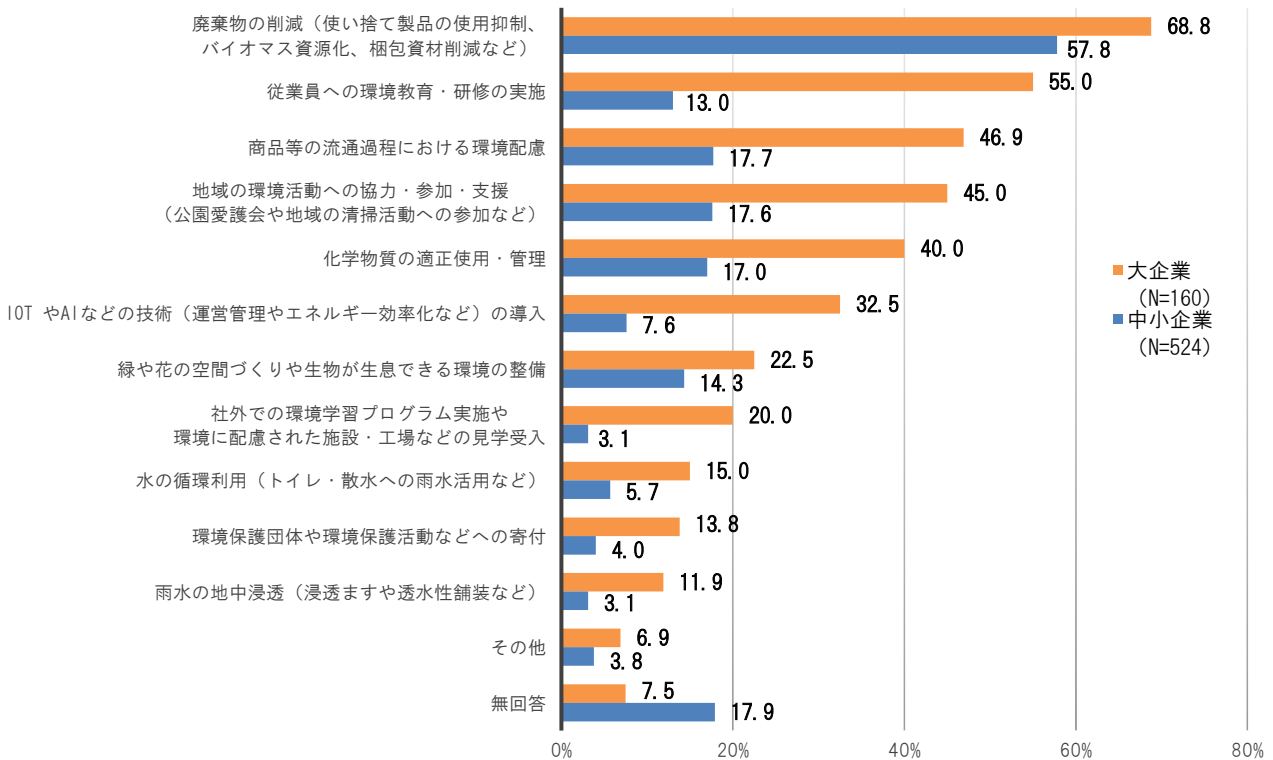
問5 2015年に国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）では、環境・経済・社会の諸課題を統合的に解決するため、17の目標と169のターゲットが示されました。SDGs達成に向けて企業の取組も広がっています。貴社ではSDGsへの貢献の視点を持った経営、事業活動を行っていますか。【1つ選択】



2 環境への取組状況

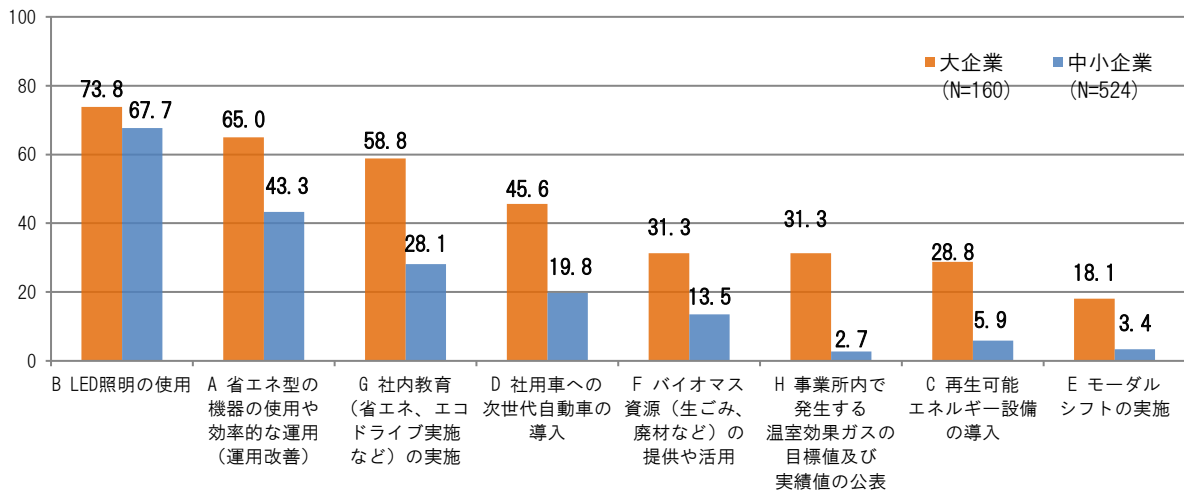
- ・環境への取組内容を聞いたところ、大企業、中小企業ともに「廃棄物の削減」が高い割合を示した
- ・プラスチック問題の解決に向けた取組としては、「リサイクルボックス設置や分別」が高い割合を示したが、それ以外の取組については5割を下回る割合となった
- ・脱炭素化の取組について、大企業、中小企業ともに省エネの取組が比較的高い割合を示した一方で、目標値や実績値の公表まで実施する企業は大企業でも31.3%となった

問7 次に挙げる環境への取組を行っていますか。【選択はいくつでも】

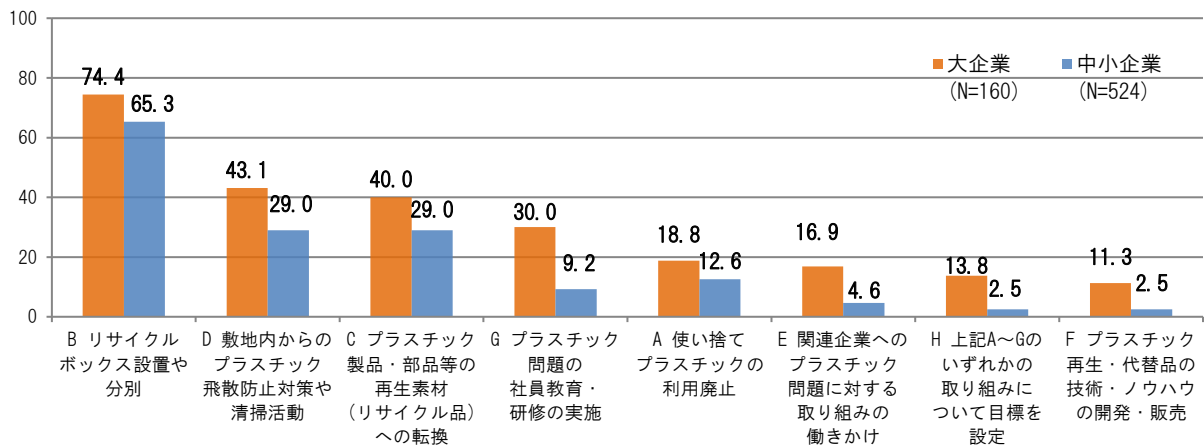


問9 貴社では、次に挙げる脱炭素社会の実現に向けた取組を行っていますか。

【A~Hそれぞれ1つ選択】



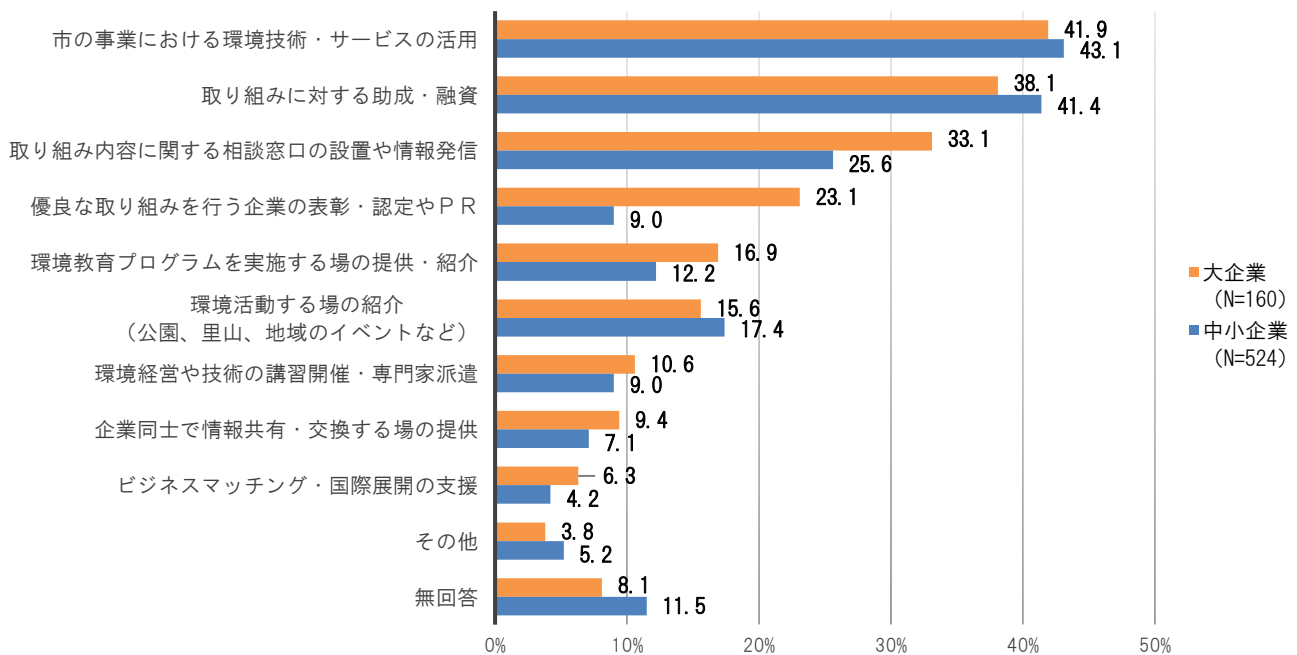
問 11 貴社では、次に挙げるプラスチック問題の解決に向けた取組を行っていますか。
【A～Iまでそれぞれ1つ選択】



3 横浜市の環境施策への意見

・ 環境への取組を展開する際に市に求めることは、大企業、中小企業ともに「市の事業における環境技術・サービスの活用」と「取組に対する助成・融資」など事業活動と直接的に関わる施策の他、「相談窓口や情報発信」も求められている

問 13 貴社で環境への取組を展開する際に、市に求めることはありますか。
【重要なものを3つまで選択】



◆調査概要

- 期間：2020年9月16日(水)～10月12日(月)
- 対象：横浜市に本社または事業所を置く企業2,000社
うち、大企業523社、中小企業1,477社
- 方法：郵送配付ー郵送回収によるアンケート調査
- 回答：684社(回収率34.2%)
うち、大企業160社(回収率30.6%)、中小企業524社(回収率35.5%)